

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3290600091		
法人名	社会福祉法人 花の村		
事業所名	グループホーム 合歓の丘		
所在地	島根県江津市後地町2935番地4		
自己評価作成日	平成27年10月20日	評価結果市町村受理日	平成27年12月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 x.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=329

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPOLまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白濁本町43番地		
訪問調査日	平成27年11月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

同敷地内にはグランドゴルフを行える多目的広場があり、地域交流の拠点としての機能を兼ね備えている。さらに、同法人の保育園が側にあるので、行事への参加、見学も可能。園児も時々遊びに来てくれるなど、交流を持たせてもらっている。又、広い敷地の空きスペースを活用し、花壇を利用者さんと一緒に作って、さまざまな四季折々の花など一緒に栽培し、外出、体を動かす機会を多くとれるよう職員一同意識している。入浴は温泉入浴も可能で、利用者にもとても喜んでいただいている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人の理念のもと、利用者の人格を尊重し、認知症の改善へ向けて一人ひとりの五感への刺激を大切に活き活きと過ごせる支援に取り組んでいる。環境に馴染めなかった利用者や、声や言葉が出ない利用者へ声掛けや関わりを増やしたことで声を出し話せるようになるなど笑顔が見られるようになった。年2回の家族会では、そば打ちや天ぷらをしたり釜戸でご飯を炊くなど一緒に行い信頼関係を築くことに努めている。運営推進会議への地域の人の参加で取り組みへの理解が得られ、利用者が住み慣れた地域で継続して暮らせる支援に繋がっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	月1回ミーティングの際、事業理念の唱和を必ず行い、浸透を図っている。理念を職員間で共有し、それに基づいた行動を意識して介護の現場に結びつけるようにしている	法人の理念に基づき「一人ひとりを大切にする介護」を目指し、利用者の生活歴や趣味、好みなどを知り継続した生活が送れるように支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩や買い物、病院への受診など利用者と一緒に地域へ出かけ、コミュニティーセンター等で催しがある際も希望を募り、一緒に出かけ、そのつど地域の方々との交流を継続している	地域の祭りや文化祭に出かけ地域の人と交流したり、日本舞踊のボランティアの来報もある。事業所のグランドゴルフ場「多目的広場」を地域の人に利用して貰っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の人の理解や支援の方法はさまざま出かけた際、見ていただいている。又、キャラバンメイトとして職員も活動実績もあり、出来ていると思う		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で、利用者やサービスの実際、取り組み等の状況について、報告や話し合いを行い、そこでいただいたご意見を現場に活かせるよう努めている	利用者の状況や活動を伝え参加者から意見や情報を得てサービスに活かしている。事業所の取り組みを理解して貰っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議で、情報交換、情報の共有をさせてもらっている。必要な時は随時連絡を取らせてもらっている	運営推進会議で事業所の実情を伝え意見、助言を得ている。「負担軽減」についてなど随時相談している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	車いす、ベット柵、玄関の施錠も含め身体拘束、抑制をしないよう実践している	法人内の研修で理解を深め身体拘束をしないケアに取り組んでいる。言葉や行動を抑制しないで本人本位の対応をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内での虐待が見過ごされることがないように職員とおし注意を払い、防止に努めている。施設内の研修もあり参加している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、お1人申請中。学ぶ機会は少ないが、制度の理解はしており、必要性が今後も生じた場合は活用したいと思っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解散は改定等の際、利用者、家族に丁寧な説明を心がけ理解、納得を図っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、家族会等でご意見や要望を聞く様心がけている。外部者へ表せる機会としては運営推進会議、外部評価を想定している	面会時や毎月の便りで日頃の様子を伝え家族から「生き活きている。安心しました。」などの声がある。年2回の家族会では利用者や家族と職員が会食し交流を図っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングや、その都度業務の中で意見や提案をもらい、法人のリーダー会等で提案、反映できるようにしている	施設長は日頃から職員の体調や家族の状態を気遣い、管理者から情報を得て働きやすい環境作りに取り組んでいる。職員は管理者に相談事をし、腰痛負担軽減など改善に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員それぞれが意欲的に働けるよう職場環境、条件の整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修委員会も設置され、法人内外の研修を受ける機会や、職員を育てる取り組みは行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流する機会は少ない。ネットワーク作りや勉強会などのサービスの質の向上とはなっていない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談の際は、場所、時間含め信頼関係づくりに配慮している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談の際は、場所、時間含め信頼関係づくりに配慮している。また、実際連絡も継続的に行っており、信頼関係は築けている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	例えば紙パンツ使用を布パンツへ変更し、支援を行うなどしている。対応は出来ていると思われる		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	必ず何かする際は一緒に行動し、役割をもってもらえるよう支援している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の様子をお伝えしたり、ご本人さんからも電話できる環境も整っており、面会、家族会など家族の絆を大切にしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	同じ地域の方が、小規模多機能施設へ来られた時など、行き来して交流を持つようにしたり、本人が暮らしておられた近くのお店に買物へでかけたりしている	一人ひとりの行き慣れた場所や催しに参加したり、住み慣れた地域の敬老会に参加し近所の人との繋がりを大事にしている。家族の協力で親戚の法事に参加する人もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	可能な限り、間に入り一緒に関わられるようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在の所、サービス終了者はおられないが、必要に応じて経過をフォローし、相談や支援に努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意向の把握に努め、可能な限り行っている	生活歴や、家族、親戚から情報を得たり、筆談やジェスチャーなど一人ひとりに合わせた関わりからグループホームでの暮らし方の希望を把握し日々支援に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの暮らしについても把握するよう努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間で、随時情報を共有し、小さな変化に気づくよう努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	様々なアイデアを出し、現状に合った介護計画が作成できるように努めているが、全ての反映は出来ていない	利用者、家族、関係者と話し合い担当職員、ケアマネージャー、管理者で作成している。連絡帳や日報、個人ファイルを活用し職員間で情報の共有に努め見直しなどに繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や、ケアの実践、結果、気づき等、個別記録に記入し、介護計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存のサービスに捉われない様出来るだけ新鮮なアイデアを出し合い取り組んでいる。(花壇をいちから作ったり、夜の散歩等)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しめるよう支援しているが、地域資源の把握と活用は十分でない		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	常に連携をとり、本人及び家族等の希望を大切に、薬を少なくしていただいたりして、適切な医療を受けられるように支援している	入居時、利用者や家族と話し合い協力医による往診や受診対応をしている。夜間や緊急時にも相談出来、適切な医療を受けられるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループホームの職員には看護師は配置されていないが、併設の小規模多機能施設とすぐ側の法人内の看護職との連携はとれており、適正な受診や看護を受けられるように支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者との情報交換や相談に努めている。又、出来るだけ早期に退院できるように病院関係者との関係作りにも努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	方針の共有は出来ているが、すべての方に十分な説明をし、地域の関係者と共にチームでの支援には取り組めていない	状況に合わせ利用者、家族の意向の確認や協力医との話し合いを考えている。重度化した場合の指針を作成している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急の方法等、年1回は行えるようにはなっている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回は避難訓練を行っている。地域との協力体制は整っている	定期的に日中や夜間想定避難訓練を実施して振り返りを行っている。法人内で毎月防火委員会を開催し防災に対する意識付けを行っている。	避難訓練の振り返りを活かした取り組みを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重した言葉かけや対応に心がけているが、時々慣れ合いの言葉かけが出てしまうこともあった	一人ひとりの人格を尊重し無理強いをしない言葉掛けに取り組んでいる。トイレの声掛けは周りの人に気づかれないようにさりげなく行いプライバシーに配慮した対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	オープン、クローズの質問を使い分け出来るだけ自己決定が出来るよう努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	まだまだ利用者の世界でなく職員の世界に招いているように思える所もあるが、希望に沿って支援できるよう努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時など、どの服を今回きていただくか確認しており、その人らしさが失われない様に支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食ごとに一緒に準備している。好みや力も活かしている	調理や下ごしらえ、下膳など出来る力を活かせるようにしたり、利用者の病状に合わせさりげない声掛けや対応をしている。職員は利用者と一緒に食事をし、食材などを話題にして場面作りをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	記録を取り、栄養摂取や水分確保の支援を行っているが、どうしても水分は少ない方もおられる		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員の介入が出来ない時もあり、毎食後すべては出来ていないこともある		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の失敗や、おむつの使用を減らすために布パンツに替えるよう努めている。現在2名の利用者さんがされており、増やしていきたい	おむつの使用を減らしたいとの考えで入居時から一人ひとりの排泄の間隔を把握し、利用者に合わせて声掛けを行い、紙パンツから布パンツへと改善に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動、水分摂取に努め、出来るだけ自然排泄を促しているが、便秘が強い時は下剤の内服もしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の希望も出来るだけ取り入れ入浴していただき、夕食後のシャワー浴も行うようにしている	シャワー室や浴室があり利用者の希望に沿った対応をしている。法人敷地内の温泉を希望する利用者もあり楽しみになっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	適宜、本人の様子や状況に応じて休息の声かけを行っている。証明の明るさなども本人の意向に添うように支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ドクターとの連携もとれており(薬剤師含む)薬の効能などファイルに個別に綴じ、すぐ確認できるようにしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ドライブ、花壇の世話、裁縫、料理、工作等、すぐに出来るよう努めている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気軽に外へ出かけていただける様に努めている。本人の生家近くにも行ったりしている。「初めて行ったなあ」と喜ばれる事も多々ある	希望に合わせて実家や生家、買い物、ドライブに出かけている。日頃から事業所周りやテラスや多機能広場などでベンチに座り季節の花や周りの樹木を見たり、枯葉を集め焼き芋をするなど季節を感じ外気を楽しめるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、全ての方は職員で管理してしまっているが、要望あれば使える様になっており、購入もしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	常に支援している。電話、手紙のやりとりは出来ている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	構造上の限界はあるが、出来るだけ配慮、努力している。温度、湿度、臭いなど、特に季節の花を生けたり季節感にも配慮はしている	ホールには日頃の写真や花、果実が飾ってある。テラスには利用者手作りの干し芋や干し大根が吊るしてあり生活感や季節感を取り入れている。ボランティア来訪時には小規模多機能型事業所の人と楽しめるようにドアが開閉扉になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	談話コーナーを設けてある。椅子の位置も替えたり、居場所の工夫に努めている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものや好みのもを活かし居心地よく過ごせるよう努めているが不十分な場合もあるかもしれない	使い慣れた家具を持参して貰い居心地良く過ごせるようにしている。ソファやテレビやエアコンが体に合わない人はヒーターを持参したり、花の好きな利用者の窓からは花壇が見えるように配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	協力出来る事、出来そうな事には手を出さず、安全に配慮して見守るようにしている		